

発展途上国の農産物市場の形成
における産業集積の役割
—西アフリカ、ガーナの精米市場の事例—*

櫻井 武司

サブサハラ・アフリカでは、いうまでもなく農業生産性の向上が貧困削減と経済成長に欠かせない条件である。農業の生産性は単位面積当たりの収穫量だけで決まるものではなく、収穫後の加工や販売の効率も重要な影響を与える。しかし、収穫後に焦点をあてた研究はまだ少ない。そこで、本研究は、西アフリカのガーナの精米業を事例として取り上げ、その生産性の向上を決定する要因について分析した。

ガーナの内陸都市クマシの周辺では、都市化に伴い急増するコメ需要に応じて低湿地における天水稲作が拡大している。非伝統的な換金作物であるコメが輸入米との競合下で消費者に受け入れられるには、効率的な精米市場が形成される必要がある。本研究は、クマシ市内および周辺農村部にある60の精米所を対象とした調査に基づき、精米市場の効率性を分析した。効率性の指標として、精米業の利潤率、精米の品質、品質と精米価格の関係の成立、コメ生産者への無担保融資の実施などを用いる。

まず、産業集積の効果を見るため、クマシ市内に集積している精米業者と農村部に散在する精米業者について、効率性の観点から比較した。その結果、クマシ市内の精米業者の集積は技術革新を促進し、コメ生産者への無担保融資を可能としていることが明らかとなった。これらのことは、同業者の集積が技術や市場参加者（コメ生産者や流通業者）に関する情報収集のコストを引き下げている結果であると考えられる。

次に技術革新やコメ生産者への融資はいずれも、予測された通り、精米業の効率を高めていた。したがって、精米業者の集積は、同産業の効率化に貢献していると言えよう。とりわけ、過去にコメの流通に従事したことのある精米業者は、他の精米業者と比べて効率

性が高い。ガーナの精米市場では、品質の高い輸入米との競合のため、地元産米の品質改善が必須となっており、コメ流通の経験が有利に働く状況になっているのであろう。

効率の改善だけでなく、本研究は精米技術の革新が精米の品質を改善していることを示した。つまり、全粒米の含有量が高まり、碎米や異物の混入が少なくなる。本研究の問いは、こうした品質の改善が価格に反映するかどうかであるが、分析の結果、クマシ市内では精米の品質と価格との間に正の相関があるが、周辺農村部にはそのような関係がないことが判明した。これも、クマシ市内に精米業者が集積していることにより説明できる。つまり、精米取引が集中するため、集積地内ではインフォーマルな品質評価システムが形成されているのである。これは産業の発展にとって、重要な意義を持つと考えられる。ただし、今後、地元産米の生産が拡大すれば、クマシ市内から周辺の農村部に精米所が拡散し、クマシ市内の集積の割合が低下するため、このような集積の効果も減少すると考えられる。その場合でも、産業発展の初期段階において集積地内で成立した効率的なコメ市場（とりわけ品質を反映した価格形成）は維持され、精米所の拡散とともに周辺部にも伝達するであると予測できる。

以上から、精米業者の集積は、いくつかの点で地元のコメ生産を推進する役割があると考えられる。まず、精米技術の革新は精米手数料を引き下げ一方、精米の品質改善により精米価格を引き上げた。さらに、コメ生産者は、精米業者からの融資を受けられる。しかも、精米の品質と価格の関係が成立すると、コメ生産者は精米の品質を高めるために収穫後の乾燥や脱穀の処理にもっと気を配るようになるであろう。これらのことは地元産米の生産を促進する効果がある。したがって、農産物加工産業の集積は当該産業自体を発展させるだけでなく、川上の農業生産を促すと言え、国産米の増産が課題となっているガーナにとってたいへん望ましい。

* 澤田・園部編(2006)『市場と経済発展——途上国における貧困削減に向けて——』東洋経済新報社、第6章。